

寸 胴

THE GIFU UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

第54号 2016. 3

図書館ホームページ URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~gulib/>

目 次

20xx年の図書館	1	「学生のおすすめ本展示」を開催しました	7
寄贈図書一覧（平成27年 7月～12月）	6	お知らせ	8

20xx年の図書館

松 原 正 也



「2015年の図書館???

「寸胴」のバックナンバーを閲覧するために、図書館のwebサイトにアクセスした。「寸胴」は、第1号から最新号まで（おそらくこの記事も）デジタル化され、ほぼすべての内容をweb経由で入手できる。些細な偶然だが、第1号が発行された1990年は、私が本学の工学研究科に入学した年である。

バックナンバーの寄稿記事リストのなかに、タイムリーなキーワードを見つけた。1993年10月に発行された第11号の「2015年の図書館???

である。1989年に公開されたハリウッド映画「バック・トゥ・ザ・フューチャーPART 2」では、マイケル・J・フォックスが演じる主人公のマーティ・マクフライが、1985年から30年後の「2015年」、すなわち「未来」へタイムトラベルする。作中にて、映画制作ときに想像された「未来=2015年」のシーンがSFXを駆使して描かれており、いま見るとなかなか興味深

い。1980年代当時、革新的な個人用コンピュータとして世間を騒がせたApple Computer社の初代Macintoshが、映画の「未来=2015年」ではAntique Computerのレッテルを貼られて骨董屋のショーウィンドウに並んでいる。現在、初代MacはたしかにAntiqueなマシンである。

さて、この「2015年の図書館???

」の記事を寄せられたのが、当時岐阜大学工学部教授の池田尚志先生である。私が学生のころから、池田先生には研究などさまざまな面でたいへんお世話になった。「2015年の図書館」は、池田先生が予想されたものなのだろうか。1993年からの22年越しのロングパスを、不肖ながら私がキャッチさせていただくことにした。図書のデジタル化については、何度かこの「寸胴」で話題として取り上げられている。池田先生が書かれた「2015年の図書館???

「…しかし電子化出版物といってもまだその程度のことであって、『電子図書館』化はこれからのことである。(中略) また図書そのものはまだ旧来の紙の媒体のままである。『電子図書館』では書誌情報だけでなく図書そのものの全体が、しかも文書構造の表現を含めて電子化(全文データベース化)されているはずであり…」

と記され、1993年においては、図書館における図書がまだ紙媒体のままであるとされている。

では、現在はどうなのかというと、やはり図書館における図書の主役は依然として紙媒体であるといえるだろう。とはいっても、現在デジタル化図書として注目される「電子書籍」と、それを読む端末「電子書籍リーダー」があり、その知名度を高めつつある。私は数年前から電子書籍リーダーを日常的に読書に使用していて、紙媒体よりも電子書籍リーダーの利用のほうが上回っている。本記事では、図書のデジタル化の話題として、この電子書籍および電子書籍リーダーについてとりあげてみたい。

電子書籍と電子書籍リーダー

やや滑稽だが、「電子書籍元年」とよばれる年はいくつかあるらしい。そのうちの2010年には、多くのメーカーから、写真に示すような電子書籍を扱う各種の機器が相次いで発表され、電子書籍販売サービスが展開した。前述のMacintoshを発売したApple社から初代iPadが発表・発売され、大いに話題になったのもこの年である。

電子書籍の実体は、コンピュータによって扱われる電子ファイルである。それを読むための機器については、紙媒体に比べて解決すべき課題が多いのが実情である。従来、電子書籍のファイルを閲覧するために、パーソナルコンピュータ(PC)がよく使われている。

PCは、処理性能の向上と小型化にともない、可搬性が向上しているものの、紙の文庫本のように気



写真：電子書籍を扱う機器の例
(左からタブレット端末・電子書籍リーダー・スマートフォン)

軽に片手で持って読書というわけにはいかない。また、読書のたびに、いちいちPC本体と後述の閲覧ソフトウェアを起動せねばならず、紙媒体のようにすぐにパッと開いて読むことができない。PCを駆動するためのバッテリーも数時間程度しかもたない。

PCのディスプレイ装置は、大きくて重いCRTから、薄くて軽い液晶ディスプレイにほぼ置きかわった。さらに、液晶ディスプレイはカラー化と高精細化が進み、低価格で入手可能になった。とはいえ、PC本体同様精密電子部品で構成されていることにはかわりはないので、駆動にはやはり電源を常時必要とする。

通常、図書の大部分は文字データで構成されるが、出版物として読みやすくするために、版面を構成するためのさまざまなレイアウト要素が付加される。たとえば、本文、見出し、段落、ルビ、図表やキャプションなどである。図書が版面に表示されるとき、たんに文字を羅列するだけでなく、レイアウト要素を適切に解釈して表示(レンダリング)することが要求される。電子書籍は、これらの文書構造やレイアウトを構成するための特別な形式(フォーマット)を持っている。電子書籍のフォーマットには、固定レイアウト型とリフロー型と呼ばれるレイアウト方式があり、前者はPDFなど、後者はEPUB、.book、MOBI(AWZ)、XMDfなどがある。PCでこれらの電子書籍を閲覧する場合、フォーマットに適した

閲覧ソフトウェアを探し、必要であれば購入して、インストールする必要がある。

このような電子書籍による読書の煩わしさや不便を解消するために、電子書籍の閲覧に特化した端末が、電子書籍リーダーである。電子書籍リーダーのコンピュータとしての基本設計概念は、PCとそれと大差はない。ただし、読書のためにつくられた電子書籍リーダーは、読書に不要な機能や性能を削ぎつつ、機能性や手軽さにおいて紙媒体に近づけられている。電子書籍リーダーの端末は、文庫本程度に小型化され、厚さも1cmを切るものが多く、携帯にも便利である。使用されているプロセッサおよび周辺の電子回路は、PCに比べると低電力で動作する。したがって、バッテリーによる電力供給も、PCと比較して長く持続する。閲覧ソフトウェアは内蔵されており、版面のレンダリングも瞬時に完了する。

電子書籍リーダーのなかには、液晶ディスプレイのかわりに電気泳動方式の電子ペーパーが使われているものがある。電子ペーパーは、反応速度とカラー表示に難があるため、PCやタブレット端末のディスプレイとして利用するには適さない。しかし、(1) 前回まで読んだページがすぐに表示される、(2) 画面の書き換えの瞬間しか電力を消費しないため、バッテリーは満充電から数週間もつ、(3) 紙のように外光を反射して表示する、(4) 一見すると印刷物なみに高精細である、など、読書利用においてすぐれた点は多い。

代表的な電子ペーパー式電子書籍リーダーのデータ記憶可能領域は3GiB余である。この量は、PCやタブレット端末のそれに比べると多いとはいえない。しかし、文字データ主体の電子書籍を扱ううえでは、実用的にあまり問題にならない。なぜならば、電子書籍の大部分を構成する文字データは、画像や音声などと比較してデータ量が少ないからである。たとえば、夢野久作の小説「少女地獄」は、角川文庫版(平成7年4月20日・第29刷)のうち約180ページ、紙媒体の厚さは0.7cmを占める。これを電子化した

文字データのファイルは、225KiBになる(本文のほかにレイアウト要素やルビなどを含む青空文庫形式。なお、この小説に挿絵はない)。このファイルを、電子書籍リーダーの形式(MOBI形式)に変換してみると、600KiB強となる。このデータ量の図書であれば、電子書籍リーダーの3GiBの記憶領域に5,000冊以上(紙媒体の厚さで35mm以上、幅90cm、7段の書架で5台分以上)を保存できることになる。実際には、何千冊もの図書を端末に保存することは現実的ではないだろうが、数十冊程度の図書を端末に保存して携行できるのは、電子書籍ならではである。

池田先生の記事では、図書を読むうえでのユーザーインターフェイスについても言及されている。これについては、電子書籍リーダーは紙媒体の図書にまだに及ぶところではない。たとえば検索に関して、キーワード一致による全文検索ならば電子書籍リーダーの得意とするところである。とくに、意味のわからない語を端末上で辞書検索して調べる機能は非常に重宝する。しかしながら、検索キーワードを端末に文字入力したり、もしくは部分選択して指定したりするのは、操作が煩雑であり、不便である。文庫本程度の紙媒体であれば、パラパラとページをめくって目的箇所を直感的に探し出せる点で、電子書籍リーダーより楽である。

また、読書の便利さそのものとは関係ないが、図書を所有したり、手触りを楽しんだりする感覚は電子書籍にはない。

岐阜大学図書館の電子書籍

岐阜大学図書館においても、デジタル図書のサービスが提供されている。電子ジャーナルはよく知られているが、通常電子ブックの取り扱いが始まっていることを私は最近知った。岐阜大学図書館のOPACを使用すると、検索資料区分に「電子ジャーナル」「電子ブック」という項目が見られる。また、図書館webサイトの右下には「▼電子ブック」とい

う項目があり、リンク先でいくつかの電子書籍サービスから選択して電子書籍を読むことができる。このほか、e-DDSと呼ばれる図書館所蔵資料の電子化サービスや、国立国会図書館デジタル化資料の閲覧サービスなど、図書館のデジタル化サービスは推進されつつある。

しかし、現時点では図書館で扱う電子ブックは紙媒体ほど多くない。本記事執筆時、岐阜大学図書館のOPACの検索条件から、「電子ブック」のみを選択し、「ネットワーク」というキーワードで検索したところ、検索結果はわずか4件であった。同じキーワードで検索条件を「全資料」にすると601件、そのうち（デジタル化されていない）「図書」は561件であった。このほか、電子ブックの閲覧は学内のPCからのみであるなど、利用上の制限は少なくない。

池田先生も述べられたように、図書館で所蔵している図書がすべてデジタル化されて、電子データとしてすぐに借りることができ、電子書籍リーダーに格納できるようになれば、もしくは電子書籍リーダーからインターネットでアクセスして随時閲覧できるようになれば、と私は思う。さらにいえば、国立国会図書館デジタルコレクションなどのインターネットで公開されている資料を、容易に電子書籍リーダーで閲覧できればありがたい。そのためには、図書館サービスと電子書籍リーダーとの、双方の対応が必要だが、デジタル化に向けて今も進みつつあるのは確かだろう。

「20xx年の図書館」

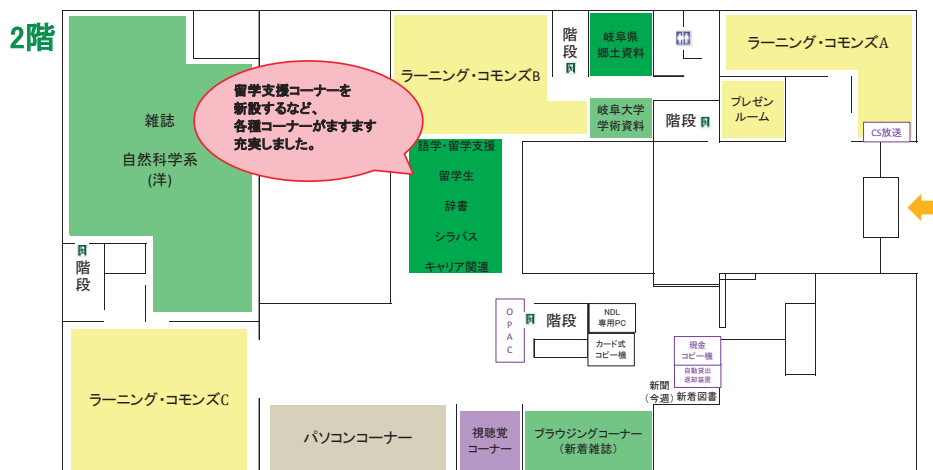
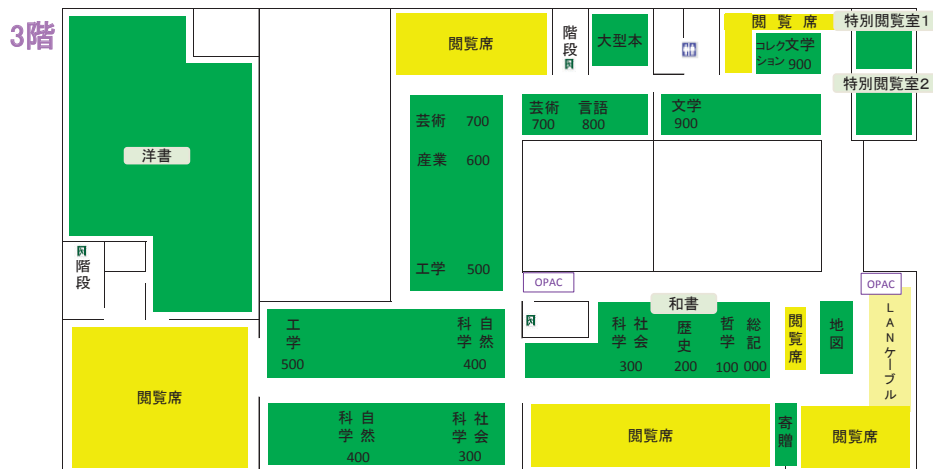
昨今、私たちの生活に関わるテクノロジーの進化は著しい。たとえば、昨年ごろから話題となっている自動運転自動車がある。自動運転「レベル4」と呼ばれる自動運転自動車は、自動車にビデオカメラ、各種センサ、GPS、通信機器などが取り付けられ、人間のかわりに走行に必要な周囲の状況を収集できる。目的地をセットすると、電子化された地図情報をもとにカーナビ同様に経路探索し、アクセル・ステアリング・ブレーキ・保安部品などが自動操作されて、状況判断しつつ道路を走行してゆく。人間は、運転操作にいっさい介入しない。まだ実験段階であり、一般公道をこのような自動運転自動車が走行するには安全性や法整備など課題は多いが、これが実用化されれば、目的地までの移動中に読書ができるようになる（許されるか否かは別として）。

完全自動運転の自動車に乗り込み、目的地をセットする。ドライバー(?)は、通信ネットワークを介して電子書籍リーダーを岐阜大学図書館に接続し、読みたい電子書籍を選ぶ。そして、自動車が目的地まで安全に移動しているあいだ、ドライバーは電子書籍リーダーで読書を楽しむ（もちろん紙の本でもかまわない）。20xx年、そのようなデジタル図書館サービスによる読書スタイルは実現するのだろうか。

（まつばら まさや：総合情報メディアセンター
准教授）

図書館マップのご案内

～昨年の増改築終了後も図書館の充実を目指しました～



寄贈図書一覧（平成27年7月～12月）

平成27年7月～12月に図書館にご寄贈いただいた図書の中で、本学教職員が著作・編集・刊行等に関係した図書を掲載します。ご寄贈いただき、ありがとうございました。引き続き、ご寄贈をお願いいたします。

●鈴木壮（教育学部）

- ・スポーツと心理臨床：アスリートのこころとからだ／鈴木壮著

【本館シラバスコーナー 780.14 || Suz】

～内容紹介～

アスリートのカウンセリングや心理療法についての本です。アスリートの心理臨床（スポーツカウンセリング）の歴史、彼らの生きている世界、相談事例（7事例）、心理的支援の方法を述べました。

●石黒直隆（応用生物科学部）

- ・東北学：時空を駆ける、フィールドワーク／東北文化研究センター責任編集

【本館3階 291.2 || Toh】

～内容紹介～

本誌では、「オオカミの行方」として特集し、絶滅したニホンオオカミの遺伝、生態、儀礼などを掲載し、江戸時代には、東北地方に広く分布したニホンオオカミとヒトとのかかわりについて紹介している。

●塚田敬義（医学系研究科・医学部）

- ・生命倫理・医事法／塚田敬義、前田和彦編；塚田敬義〔ほか〕著

【医図3階 490.15 || Sei】

～内容紹介～

医療・ライフサイエンス系初学者向けの教科書である。執筆者の一部は岐大での講義担当者も含まれている。趣旨については「推薦の辞、発刊にあたって」に譲るが、生命倫理と関連する医事法の連携が特色である。

●向井貴彦・肥後睦輝（地域科学部）、川上紳一（教育学部）、楠田哲士（応用生物科学部）

- ・岐阜の自然考：ふるさとぎふの多様な生きものたち／岐阜の自然考出版委員会編

【本館3階 460 || Gih】

～内容紹介～

岐阜の自然・動植物のエッセイ集。5年間にわたる岐阜市自然環境基礎調査の過程で明らかになったことや感じたことを多くの人に知ってもらおうと、岐阜新聞の連載コラムとして執筆、掲載された内容をまとめた本です。

●山本眞由美（保健管理センター）

- ・大学生の健康ナビ2015：キャンパスライフの健康管理／山本眞由美監修

【本館3階 498.3 || Dai】

～内容紹介～

岐阜県大学保健管理研究会（岐阜県下の高等教育機関が参加）が発案し、大学生のための健康の話題を、各分野の専門家が執筆した。大学生の健康啓発本として、また、保護者や教職員の参考本として必携。

※内容紹介文は寄贈者による。

「学生のおすすめ本展示」を開催しました

岐阜大学図書館では、教育推進・学生支援機構学修支援部門教育企画立案学生チーム（eplus）の連携組織である岐大読書会と「学生のおすすめ本展示」企画を行いました。

これまで岐阜大学図書館では、図書館職員がテーマを設定してそのテーマに関係する図書を紹介するという職員主導のテーマ展示を行っていましたが、今回は学生が主導で企画を行うという岐阜大学図書館初の試みとなりました。

紹介する図書の選定や展示コーナーのレイアウトに関する作業なども岐大読書会のメンバーによって行われ、展示図書は選定者によるコメントが併せて紹介されました。



今後も、テーマ展示だけではなく、様々なサービスを充実していく予定となっておりますので、是非図書館にお越しください。



図書館職員（前列左右）と岐大読書会メンバー

/// お 知 ら せ ///

図書館本館 1 階の集密書庫について

現在、図書館本館 1 階の集密書庫は、集密 0・集密 1・集密 3・集密 4・集密 5 の 5 つに分かれておりますが、集密 0 を除く 4 つを 1 つに統合する作業を行っています。

また、併せて、現在 3 階の書架に配架されている図書の一部を 1 階に移動しています。

作業中にご迷惑をおかけいたしますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、統合作業を行うため、1 階の一部のコーナーを移動しております。

2016 年の利用案内でもご案内しておりますが、新しい配架場所がご不明な場合には 2 階サービスカウンターまでお問い合わせください。

1 階和書コーナーの新設について

図書館本館 1 階に、1 階和書コーナーが新設しました。

これまで 3 階に配架されていた図書の一部を 1 階和書コーナーに移動しておりますので是非ご活用ください。

場所がご不明な場合には、2 階サービスカウンターまでお問い合わせください。

提供データベースの変更について

これまで文献検索のためのデータベースとして Web of Science を提供してまいりましたが、2016 年 4 月から Scopus へ変更することとなりました。

Web of Science 同様、図書館ホームページからアクセス可能となっておりますので是非ご活用ください。